

普及活動現地情報

「農業現場では、今」

平成 30 年 4 月号



【西牟婁振興局】4/25 重点プロジェクト【気象条件等に対応した果樹産地の振興】
～ウメの摘心処理講習会を開催～

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。



< 目 次 >

頁数

I 海草振興局	1
1. 種ショウガ栽培勉強会を開催	
II 那賀振興局	2 - 3
1. 特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」対策研修会を開催	
2. 「モモせん孔細菌病」感染枝多発に対する研修会を開催	
III 伊都振興局	4 - 6
1. 伊都地方生活研究グループ連絡協議会総会・研修会の開催	
2. 伊都地方農業士連絡協議会総会・研修会の開催	
3. 農業技術講習会の開催	
IV 有田振興局	7 - 8
1. 平成 30 年度有田地方農業士協議会総会を開催！	
2. 平成 30 年度有田地方 4 H クラブ連絡協議会総代会・技術交換大会が開催！	
V 日高振興局	9 - 11
1. 日高地方生活研究グループ連絡協議会が平成 30 年度総会・研修会を開催	
2. 平成 30 年度日高地方 4 H クラブ連絡協議会総会および 「脳トレ！ひだか」第 1 回セミナーを開催	
3. 平成 30 年度日高地方農業士会総代会及び研修会を開催	
VI 西牟婁振興局	12 - 14
1. イタドリ栽培実証展示圃の収穫始まる	
2. 西牟婁地方農業士連絡協議会が総会・研修会を開催	
3. 重点プロジェクト【気象条件等に対応した果樹産地の推進】 ～梅の摘心処理講習会を開催～	

Ⅶ 東牟婁振興局

15-16

1. 東牟婁地方農業士連絡協議会が総会・研修会を開催
2. 三津野地域活性化協議会等が「食べられる野草観察会」を開催
3. 三津野地域活性化協議会等が田植え体験を開催

Ⅷ 経営支援課（農業革新支援センター）

17

1. 和歌山県農業士会連絡協議会が総代会・研修会を開催

I 海草振興局

1. 種ショウガ栽培勉強会を開催

4月24日、農業水産振興課では、JAわかやまグリーンステーションにおいて、JAわかやま、県農とともに、今年度種ショウガ栽培に取り組む生産者を対象として、栽培勉強会を開催した。

この取り組みは、新ショウガ栽培に使用される種ショウガのほぼすべてを、県外産地からの購入に頼っているため、和歌山市内の水田転換園や山間部で種ショウガを栽培し、一部自給できるようになることを目的に進められているもので、本年で3年目となる。

この日は、生産者5名に対し、昨年度の試作種ショウガの収穫調査結果概要を説明したあと、当面の栽培ポイントと種となるショウガの選別や分割方法の説明を行った。特に、生育初期の土壌水分を維持して初期肥大を進めることの重要性を呼びかけた。

参加した生産者らは、4月下旬から5月上旬に順次、植え付けを進める予定。

今後は、和歌山市種生姜生産促進協議会（和歌山市、JAわかやま、県農、和歌山県で構成）のメンバーで定期的に巡回指導や研修会を行い、さらに良質な種ショウガ生産を目指していく。



種ショウガ栽培勉強会

Ⅱ 那賀振興局

1. 特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」対策研修会を開催

那賀地方病虫害防除対策協議会では、将来的に管内果樹産地に被害を及ぼす事が確実視される特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」について、大阪府立環境農林水産総合研究所にて対策研修会を開催した。クビアカツヤカミキリについては、今後、広域的な取組が必要となってくることが想定されるため、近隣の関係機関等にも声かけし、JA紀の里、JA紀北かわかみ、岩出市、伊都、那賀振興局担当者 15名の参加があった。

講師の大阪府立環境農林水産総合研究所の金子研究員からは海外の文献等ではクヌギ等の樹種にも被害を及ぼす事もあるが、日本で発生している本害虫は桃、桜、梅などバラ科の系統のみに被害が確認されている事や、加害する樹種にも好みがあり、桃>桜>梅の順で好んで食害する等の生態から被害樹の診断、拡大防止に向けた取組について説明があり、熱心に質疑を交わした。

当課では、このような対策研修会を重ねるとともに、生産者にクビアカツヤカミキリの加害の特徴などを伝え、地域への侵入した場合の早期発見と防除に繋げていく予定。



加害の特徴を確認



成虫の脱出痕

2. 「モモせん孔細菌病」感染枝多発に対する研修会を開催

農業水産振興課では、本年産桃において多発が懸念されている「モモせん孔細菌病」の対策について研修会を開催した。JA紀の里から営農指導員9名の出席があった。

かき・もも研究所の間佐古主任研究員を講師とし、JA紀の里営農センター及び桃山町の現地圃場において座学及び今後の防除指導について研修、検討を行った。

研修会では3月下旬に研究所に持ち込まれたサンプルから細菌を分離した結果や、現地巡回圃場の発生状況について説明があり、今後の対策として薬剤の防除方法などについて検討を行った。

当課では、今後、JA紀の里と協力し、せん孔細菌病の発生状況を調査・把握しながら、生産者に対して降雨前防除の徹底やせん除(感染枝の切除)を呼びかけて行くこととしている。



座学による研修



現地圃場での対策検討

Ⅲ 伊都振興局

1. 伊都地方生活研究グループ連絡協議会総会、研修会の開催

4月16日、伊都地方生活研究グループ連絡協議会が伊都振興局において平成30年度総会及び研修会を開催した。来賓に井本泰造かつらぎ町長、伊都振興局新谷垣内局長をはじめ、市町担当課長をむかえ、会員27名と関係者が出席した。

議案はすべて原案どおり可決。役員改選では、かつらぎ町の小西教子氏が会長に再選された。

研修会では、紀州マルイチ農園の北裕子氏による「紀美野から発する食と農」と題した講話を受けた。

出席者は、野菜ソムリエの資格を取得したいきさつから、地元に戻って栗加工品の開発、「くらくり」を立ち上げた苦労話、そして、現在“樫蟬（はぜろう）の里、志賀野”として地域の活性化に取り組んでいる話を聞き、オンリーワンの地域資源（野菜・果物）を活かし、それが食と農と地域（人）へつながっていくのだと言うことに、改めて地域・農業の魅力と可能性を再認識する良い機会となった。



会長に再任された小西教子氏



講演する北裕子氏

2. 伊都地方農業士連絡協議会総会、研修会の開催

4月17日、伊都地方農業士連絡協議会（会長：廣田哲也氏）総会が、和歌山県農業共済組合北部支所伊都出張所において会員ら40名出席のもと開催された。

退任される指導農業士や新規認定者の紹介に続いて、総会では議案が全て原案どおり可決、承認された。

総会後の研修会では、農業共済組合伊都出張所の宮西佳彦所長から「収入保険制度」と題して講演があり、制度の概要、加入の条件、他の類以制度との留意点等についての説明が行われた。

講演の中で、宮西所長からは「加入できる品目の限定がないこと」「自然災害だけでなく、価格低下も含めた収入減少等に対応していること」等について説明があり、出席した会員ら



勇退される指導農業士



廣田会長の挨拶



講演する宮西所長



新規認定された農業士の皆様

は熱心に受講し、質問するなどして制度の理解を深めた。

3. 農業技術講習会の開催

農業水産振興課では、退職して数年の方などを対象に農業の基礎知識や技術習得を目的に農業技術講習会を開催しており、今年で10年目となる。

今年度は、柿の基礎コースには19名、基礎コースとは別に実施している専門コースには16名の受講申し込みがあった。

4月18日、振興局会議室において第1回農業技術講習会（柿基礎コース）を開催し、17名が受講した。

開講式、受講者らの自己紹介に続いて、有田普及指導員（果樹担当）から柿の歴史、柿栽培の一年、摘らい、人工受粉等について説明した。また、「富有」と「平核無」の防除暦の違い、刈り払い機の安全な使い方等についても説明した。

座学の後、九度山町の現地柿園へ移動し、「刀根早生」で摘らいの実習を行った。

初回の講習会であったため、聞きなれない専門用語に戸惑いを感じる受講者もいたため、次回、用語の解説と現場で実物を見せて詳しい説明をする予定。



技術講習会



柿の摘らい実習（九度山町内）

IV 有田振興局

1. 平成30年度有田地方農業士協議会総会を開催！

4月10日、鮎茶屋において平成30年度有田地方農業士協議会総会が開催され、各市町から農業士及び関係者併せて50名が出席した。総会では、平成29年度事業経過報告と収支決算報告、平成30年度事業計画（案）と収支予算（案）が原案どおり承認されるとともに、終了後に研修会が開催された。

研修会では、有田川町4Hクラブ松坂進也氏から、「フリマアプリ（メルカリ）」の独自ルールやそれを使用する消費者の分析を行い、低コストで効率的にネット通販に取り組んでいる内容や、紫外線を照射できるブラックライトを選果器に取り付け、みかんの腐敗果を効率的に取り除くアイデアが紹介された。

湯浅町4Hクラブ井上信太郎氏からは、平成28年から食事・宿泊を提供することで大学生を受け入れ、みかんの収穫等の農作業体験（働き手確保）を行っている事例について発表された。なお、松坂氏は3月8日～9日に開催された全国青年農業者会議園芸・特産作物部門で農林水産省経営局長賞を、井上氏は2月13日に開催された和歌山県青年農業者会議において県知事賞をそれぞれ受賞している。

次いで、和歌山県農業共済組合収入保険室次長の瀬藤成敏氏から、本年より受付が始まる「収入保険制度」について、農家目線でわかりやすい説明が行われた。

出席者からは、若い地元農業者からの発表に対して「ブラックライトではどの程度の傷がわかるのか」、「無償ワーキングホリデーとあるが、実際の経費はどの程度必要か」などの質問がいくつも出され、熱心に質疑応答が行われた。



総会



和歌山県農業共済組合瀬藤成敏氏の講演

2. 平成30年度有田地方4Hクラブ連絡協議会総代会・技術交換大会を開催！

4月18日、振興局大会議室にて平成29年度有田地方4Hクラブ連絡協議会総代会及び技術交換大会が開催され、各市町から4Hクラブ員及び関係者併せて34名が出席した。

総代会では、平成29年度の事業経過報告と収支決算報告、平成30年度の事業計画（案）と収支予算（案）が原案どおり承認されるとともに、役員改選が行われ、新会長に有田川町4Hクラブの辻岡誠之氏が就任した。

総代会終了後に開催された技術交換大会では、果樹、野菜、花き、鳥獣害等、幅広い分野から出題されたペーパーテストに挑戦し、日頃の活動で身につけた知識を競い合った。採点の結果、団体の部の第1位に有田川町4Hクラブが輝き、個人の部では有田川町4Hクラブの谷端航平氏が第1位となった。

本大会における成績優秀者は、5月14日に県暖地園芸センターで開催される平成30年度和歌山県農村青少年技術交換大会に有田地方の代表として参加する。



総代会



新役員の挨拶



技術交換大会

V 日高振興局

1. 日高地方生活研究グループ連絡協議会が平成 30 年度総会・研修会を開催

4月17日、日高地方生活研究グループ連絡協議会(後藤明子会長)が、振興局別館で平成30年度の総会と研修会を開催し、会員及び関係者を含め25名が出席した。

平成30年度総会では、平成29年度の事業経過報告・収支決算報告・会計監査報告と平成30年度事業計画(案)・収支予算(案)が審議され、すべて原案どおり承認された。また、平成29年度のシカレディース活動と食育活動報告も行われた。今年度は役員改選があり、会長、副会長(2名)、監事が再任で、会計が新任となった。

総会終了後の研修会では、ドライフラワーなどをオイル等に浸し保存するハーバリウムづくりを行った。会員らは、会計に就任した日高川町生活研究グループ川辺支部長で、社団法人日本ハーバリウム協会認定講師の小野博美氏から作り方の説明を聞いた後、プリザーブドフラワーを使って思い思いの作品に仕上げた。



総会



研修会 (ハーバリウムづくり)

2. 平成30年度日高地方4Hクラブ連絡協議会総会および「農トレ！ひだか」第1回セミナーを開催

4月18日、みなべ町生涯学習センター大会議室において、平成30年度日高地方4Hクラブ連絡協議会総会が開催され、会員17名が出席した。

総会では、平成29年度の事業経過報告や収支決算報告、平成30年度の事業計画（案）や収支予算（案）についての審議がなされた。また、役員改選が行われ、平成30年度の新役員として、会長に柏木研哉氏（みなべ梅郷クラブ）、副会長に佐藤優氏（御坊市4Hクラブ）、会計に村上弘樹氏（印南町4Hクラブ）が就任した。



総会

総会後には、平成30年度「農トレ！ひだか」第1回研修会を開催した。「農トレ！ひだか」は日高管内の若手の農業者や管内で農業を始める予定の方などを対象とした研修会で、日高地方4Hクラブ連絡協議会と日高振興局農林水産振興部の共催で、年3回の開催を予定している。

今回は、和歌山県農業共済組合南部支所長の井上泰徳氏を講師に招き、「収入保険について」と題して、保険制度の仕組みやこれまでの保険との違いなどについて講義を受けた。4Hクラブ員や一般参加者併せて19名が参加し、熱心に講演を聞いていた。



講義をおこなう井上氏



セミナー受講中のクラブ員たち

3. 平成30年度日高地方農業士会総代会及び研修会を開催

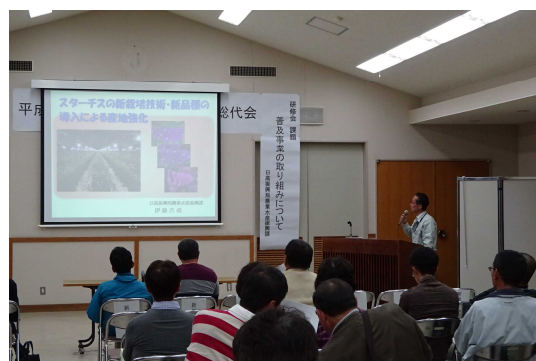
4月19日、日高振興局別館大会議室において、平成30年度日高地方農業士会総代会及び研修会が開催された。

はじめに、平成29年度新たに農業士に認定された15名の新会員について紹介が行われた。続いて総代会がおこなわれ、事業や収支の報告、新年度の事業計画（案）や収支予算（案）について審議がなされ、原案どおり承認された。

総会に続き、研修会が開催され、農業水産振興課から「普及事業の取り組みについて」と題して、平成27～29年度の普及活動実績と平成30～32年度の普及指導計画について、担当の普及指導員から報告した。参加者らは各課題について熱心に聞き入っていた。



農業士認定者の紹介



研修会

VI 西牟婁振興局

1. イタドリ栽培実証展示圃の収穫始まる

田辺市龍神村に設置しているイタドリ栽培実証展示圃では、4月9日より、2年目の収穫が始まった。地下茎から育苗した苗を平成27年6月に定植したもので、シカに食害されないようにワイヤーメッシュ等の防護柵を設置して栽培している。

収穫は昨年より10日早く始まり、直径1.3cm以上の太さのものを刈り取りし、反当りに換算すると約600kgの収量(前年対比260%)となった。

定植後の主な栽培作業は、定植1年目の除草、5月の施肥、冬期に枯れた地上部の剪除であり、労力のかからないことが魅力である。このため、当地方でも栽培を希望する農家が増えている。但し、苗の調達には自生イタドリの地下茎を掘り取って自分で育苗しなければならない。このため林業試験場では、優良苗の大量増殖試験を行い、苗の供給体制構築に向けて取り組んでいる。

当課では、今後も極力手間をかけずに栽培実証し、来年は700kg/10aの収量を目指すとともに、栽培拡大に向けた普及活動を関係機関と連携しながら実施していく。



収穫が始まった栽培実証展示圃場

2. 西牟婁地方農業士連絡協議会が総会・研修会を開催

4月17日、西牟婁地方農業士連絡協議会（会長：木村則夫）は、紀伊田辺シティプラザホテルにおいて、会員及び行政関係者等約65名が出席のもと、総会並びに研修会を開催した。

総会では、事業報告及び事業計画(案)ともに原案のとおり承認された。

研修会は、3月末に定年で退任となった元指導農業士の山下繁一氏と高垣せり氏から後輩への贈る言葉を頂いた後、山下繁一氏から「南高を拡大、梅の専作経営！？～収穫・漬け込みまで省力化～」、高垣せり氏から「自分の今までを振り返って」と題し、これまで取り組んできた農業への思いについて話があった。

また、田辺市上芳養で鳥獣害対策や農福連携による耕作放棄地の再生、地域の農産物や加工品販売を手がけるなど、地域振興活動に取り組んでいる「チームひなた」代表の岡本和宜氏から「チームひなたの取り組みについて」と題し、講演があった。

総会・研修会後に行われた意見交換会では、元指導農業士及び岡本氏の講演での提案を参考とした意見交換が活発に行われた。



農業士会総会（木村会長挨拶）



新会員紹介



研修会（講師：指導農業士OB）



研修会（講師：岡本和宜氏）

3. 重点プロジェクト【気象条件等に対応した果樹産地の振興】

～ウメの摘心処理講習会を開催～

農業水産振興課では、ウメ「南高」の摘心栽培推進による着果安定を目的に、4月25日に摘心処理講習会を田辺市上芳養と中三栖で開催した。摘心栽培に関心のある生産者12名とJA紀南営農指導員3名が参加した。

摘心処理は4月下旬と5月中下旬の2回、新梢を10cm程度残して摘心することで結果層を増やすとともに、せん定作業の省力が期待できる。しかしながら、「5月中下旬の2回目の処理が農繁期で取り組みにくい。」と労力面での課題があり導入面積が伸び悩んでいる。

そこで、5年間摘心処理を続けてきた技術実証ほや展示ほで、充電式電動バリカンを用いて省力的に摘心処理を行えることを紹介し、生産者に関心をもって取り組んでもらうことを今回の狙いとした。

摘心樹と慣行樹の着果状況の違いを確認したうえで、亜主枝や側枝の背面から発生した新梢の先端部分を、前田普及指導員がバリカンで刈っていく方法を実演した。

実際に数人の生産者に体験してもらい、「これなら作業は簡単だし、時間もかからず取り組み易い」、「2回目の処理や紅南高作りの摘葉処理も講習して欲しい」との感想や要望があった。

当課では、JA紀南やうめ研究所と連携して、ウメの生産安定につながる摘心処理技術の導入推進にむけた普及活動を継続して実施していく。



摘心処理を実演（上芳養）



生産者が体験（中三栖）

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 東牟婁地方農業士連絡協議会が総会・研修会を開催

4月10日、東牟婁地方農業士連絡協議会（会長：杉浦 仁）は、休暇村南紀勝浦において、会員及び行政関係者等約24名が出席のもと、総会並びに研修会を開催した。

総会では、平成29年度事業経過と収支決算、平成30年度事業計画と収支予算が議案どおり承認された。また、会長の杉浦氏から、新たに会員となった地域農業士3名、青年農業士1名の紹介が行われた。

研修会では、農業共済の新システム「収入保険制度」の内容について和歌山県農業共済組合南部支所長 井上泰徳氏から説明を受けた。また、みくまの農業協同組合融資課長の石坪義孝氏から「農業関係融資」について、同営農販売課次長 清水重良氏から「関西農業ワールド」開催について情報提供が行われた。

農業水産振興課では、当地域で農業のリーダーとして活躍する農業士の活動を支援していきたいと考えている。



農業士会総会



新会員紹介

2. 三津ノ地域活性化協議会等が「食べられる野草観察会」を開催

4月14日、三津ノ地域活性化協議会（会長：下阪 殖保）及び鳴津観光協会、JAみくまの、農業水産振興課は、新宮市熊野川町の小口自然の家周辺で「食べられる野草観察会」を開催した。県内外から41名が参加した。

同志社大学准教授の光田重幸氏が先頭を歩き、食べられる野草等の説明を行った。約1時間30分小口自然の家周辺を歩き、参加者はタラの芽、アケビ、フジの花房、ヒメジョオン、セイタカアワダチソウ、オオバコ等采取了。その後、採取した野草は天ぷらにして食べ、参加者からは「苦いけどうまい」、「セイタカアワダチソウが食べられるとは思わなかった」等の声があった。

三津ノ地域活性化協議会では、この他にも田植え体験、トウモロコシ定植体験など様々な体験を通じて農業や食の大切さを学ぶための活動を行っていくこととしている。



野草等の説明を受ける



野草の天ぷらづくり

3. 三津ノ地域活性化協議会等が田植え体験を開催

4月26日、三津ノ地域活性化協議会（会長：下阪 殖保）及びJAみくまの、農業水産振興課は、新宮市熊野川町の水田(13a)で近畿大学附属新宮中学校1年生（48人）を対象に田植え体験を開催した。これは、生徒たちに農作業体験を通じて農業や食物への関心、大切さを知ってもらうことを目的としたもので、平成29年から実施している。

会長挨拶後、浅井普及指導員が水稻の品種や栽培面積、種籾を蒔いてから収穫までの作業等について説明を行った。続いて協議会メンバーらが苗の植え方等を説明し、生徒全員が横一列に並び1人4条程度苗を植えていった。

生徒からは、「田植えした後は達成感があり、楽しかった。」「このような体験をして、今まで以上にお米を大切にしようと思いました。」「これからはお米を残さず、農家の人たちに感謝しながら食べたいと思った。」等の感想があった。

8月下旬に稲刈り体験を開催する予定で、収穫した米は「近大新宮祭」で販売するほか、翌年4月の新入生歓迎合宿で使用される予定である。



会長挨拶



田植え

Ⅷ 経営支援課（農業革新支援センター）

1. 和歌山県農業士会連絡協議会が総代会・研修会を開催

4月23日、県内各地の農業士で組織する和歌山県農業士会連絡協議会（山崎明会長）の平成30年度通常総代会及び研修会が和歌山ビッグ愛で開催された。

研修会では、glafit株式会社 鳴海禎造 CEO より「glafit バイク誕生秘話 ～諦めてなるものか！技術0、経験0、資金0からの挑戦～」と題した講演が行われた。

講演では、鳴海 CEO が学生時代から自分が買った服を通信販売で高く売り、お金を稼ぎ始めたことや、パソコンを組み立てて販売したり、インターネットオークションで車の部品等の取引を始め、23歳でインターネットによる車販売を行う自動車販売店を創業したこと、その後リーマンショックや経営難など様々な苦労を経験する中でも、常にその時点で自分の強みを探して、窮地を脱してきたことなどを話された。

そして2017年に経営理念と「日本を代表する次世代乗り物メーカー」となる100年ビジョンを発表し、自分たちの乗り物をつくるため、今回の演題でもある電動ハイブリッドバイク「glafit バイク」開発に至る資金をクラウドファンディングを活用して、目標金額を超える1億2800万円を調達したことなどが紹介された。

参加者からは、クラウドファンディングの仕組みや今後の販売計画など、色々と質問が出され関心の高さがうかがわれた。

経営支援課では、各地域で農業のリーダーとして活躍する農業士の活動を支援するとともに、研修会等により経営に資する情報収集の機会づくりを行う。



開会挨拶（山崎会長）



質疑応答で質問する農業士

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4931
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489